

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する支援の推進事業 取組の概要

団体名：SEISAアカデミー

研究概要

特定分野に特異な才能のある児童生徒の対応を専門とする学校外教育施設にて以下の取組を行い、学校外機関の在り方や、学習状況の把握や学習評価の在り方を探る。その際、2E児童生徒の対応にも留意して実践研究を進める。

- ・ ICTを積極的に活用した個に応じた学習活動の日常化やサポートの在り方の可視化
- ・ プロジェクトベースラーニングやSTEAM 教育を参考にした探究横断学習を教育課程の中心とした協働学習プログラムの構築
- ・ 年齢・発達・得意分野の多様な集団において有効な時間割・教育課程の検討
- ・ 家庭と情報を共有するための方法の検討
- ・ 個別指導計画モデルの作成と分析
- ・ 2E傾向のある児童生徒への多様性の理解、心身の育成を目的とした SEL教材の研究開発

令和5年度の取組

1. 個別最適な学びに関する実証研究

①学習習慣の継続と個別ニーズへの対応

AIドリル配信で学習習慣の継続を促し、国語・算数・英語を中心に展開。理科・社会や数学など、個々の要望に合わせた配信内容の調整を実施。

②学力向上と探究学習の促進

学年末に国語・算数・英語の学力検査を実施し、次年度の学習目標を設定。5名は学年相当、もしくは上の学力レベルであることを確認。

③IEPの活用

アセスメントや心理検査に基づき、個別目標を設定するも、IEP導入は見送り。児童との個別振り返り時間を設け、課題と向き合う機会を確保。

2. 協働的な学びに関する実証研究

①児童生徒の興味や進度に差があり、協働学習に創意工夫が必要

SEISA Africa Asia Bridge（国際交流フェスティバル）イベントでのブース展示発表を通して、個々の得意分野を生かした協働学習を実現

②STEAM教育

9月にアカデミーカフェを開店し、児童生徒が主体的に運営するとともにそれを通して職業体験の機会を提供し、目標額4万円を達成

3. SEL教材に関する実証研究

令和6年度の取組

基本的には令和5年度の取組を継続することと、令和5年度で見えた課題を克服するために下記のことを力を入れる。

①学校外機関の在り方に関する実証研究

A：年齢に応じた学習成果目標をどのように実現するか

B：協働的な学びに関する実証研究

D：家庭と情報を共有するための取り組みの実証研究

②学習状況の把握や学習評価の在り方に関する実証研究

A：個別指導計画モデルの作成

③2E児童生徒の対応に関する実証研究

A：SEL(ソーシャル&エモーショナルラーニング)教材に関する実証研究

児童生徒の変容

それぞれ学校に対して自分の居場所を感じられなかった者たちがこの1年諦めることなく継続して登校できたことをまず彼らの成長と言える。子どもたちができること、学びたいこと、通いたいペース、滞在時間の短縮、保護者の声、など総合的に汲み取り、方針は変えずに方法を変えることで上手く流れ始めたという実感を半年経った頃に少しずつ持つことができた。普段の登校には波がある児童生徒でも今年度3回実施した校外学習には全て参加できたことも意外な発見であった。初めての体験を通してチャレンジすること、みんなと行動を合わせることを、経験することは次のチャレンジにつながるなど、校外学習から学んだことも多かった。行事に参加することでアカデミー生としての帰属意識も芽生えてきた。次年度、全員継続が決定しているのでさらなる成長につなげていきたい。